

2025年度
自己点検・自己評価

学校法人 未来学園
前橋医療福祉専門学校



1. 学校の教育目標

未来学園は医療、福祉分野に必要な専門的知識、技術、態度を養い、実践力を身につけると共に、人間愛を基礎とし、全人的なかかわりや援助、ケアが実践できる医療、福祉従事者を養成する。教育方針に“Learning Together Thinking Together”を掲げ、教職員一同、保健、医療、福祉の発展のために学生と共に学び、共に考える教育を実践する。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

(1) 学生募集活動

少子化、医療福祉系進学希望者の減少、高校新卒者の就職率の上昇などにより、年々厳しさを増しており、定員確保に向けて次の事項について重点的に募集活動を行った。

- ・学園ホームページの運用
- ・SNS等の活用
- ・学園パンフレット等の作成
- ・進学情報サイトの活用
- ・行事等のテレビ放映
- ・学校紹介の新聞掲載
- ・高校ガイダンス、会場ガイダンスへの参加
- ・オープンキャンパスの開催・内容の充実
- ・高校、医療機関、福祉施設等への訪問活動
- ・AO入試の実施
- ・商業施設での職業理解の普及活動

(2) 教育活動

教育の質を向上させると共に学生サービスの向上のため、次の事項について重点的に教育活動を行った。

◇授業・実習内容の充実

- ・人間性教育・社会性教育の実践
- ・入学前教育プログラム・初年次教育の充実
- ・教育目標の明確化とキャリア教育
- ・国家試験・検定対策

◇研修旅行の実施

- ・沖縄今帰仁村研修旅行
- ・国立赤城青少年交流の家研修旅行
- ・京都、大阪研修旅行

- ・群馬を学ぶ日帰り研修旅行

◇学生サービスの充実

- ・ボランティア活動への参加促進
- ・国際交流の推進

◇教員研修の実施

◇退学防止対策

◇学園行事の実施

◇教育設備・備品の更新と拡充

3. 評価項目の達成及び取組状況

(1). 教育理念・目標

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④	3	2	1
・学校における職業教育の特色は何か	④	3	2	1
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④	3	2	1
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4	③	2	1
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する 業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	③	2	1

① 課題

- ・学生や保護者等の関係者に対する教育理念、育成人材像の周知徹底
- ・時代に応じて進歩する医療福祉業界に対応できる各学科における人材像についての明確化
- ・教育内容、実習内容の充実、他校との差別化の明確化

② 今後の改善方策

- ・教職員一人ひとりが理念・目的を共有し取り組む
- ・教育方針や育成人材像を明確にし、入学後の学生に対して将来像を含め周知を徹底する
- ・学生以外にも高校教員や医療福祉機関等に対し、教育理念や方針の理解を促す
- ・就職先や実習先よりアンケート等による必要な情報収集を行う
- ・AI やロボット技術が進歩する将来においても必要とされる人間性豊かな人材像を明確化し、広報発信を行う

③ 特記事項

特になし

(2). 学校運営

評 価 項 目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・ 目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
・ 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④	3	2	1
・ 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	③	2	1
・ 人事、給与に関する規程等は整備されているか	④	3	2	1
・ 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	③	2	1
・ 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	③	2	1
・ 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4	③	2	1
・ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	③	2	1

① 課題

- ・ 定期的な職務分掌の変更、人材配置の見直し
- ・ 教職員ソフトウェアにおける各種規則・規程掲載、共有化

② 今後の改善方策

- ・ 個人ではなく部署単位で業務を遂行できるよう体制を整備する
- ・ 部署毎に目標を設定し、業務内容やプロセスを共有化し、業務のシステム化により効率化を図る
- ・ ホームページや SNS、YouTube チャンネル等を活用しながら、学校の取組み等を具体的に発信し、広く関係者に理解を促す

③ 特記事項

特になし

(3)．教育活動

評 価 項 目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	3	2	1
・教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	3	2	1
・学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	3	2	1
・キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	3	2	1
・関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	3	2	1
・ 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4	3	2	1
・ 授業評価の実施・評価体制はあるか	4	3	2	1
・ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	3	2	1
・ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4	3	2	1
・ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	3	2	1
人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	3	2	1
・ 関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	4	3	2	1
・ 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	3	2	1

・職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	3	2	1
-------------------------	---	---	---	---

① 課題

- ・教員の教育力や学生指導能力に差が出ている
- ・授業準備や学生対応に時間が割かれ、学科により研修体制に偏りがあり、十分な研修を行えていない

② 今後の改善方策

- ・人工知能や医療福祉機器の進歩等、業界動向を踏まえた教育内容を具体化する
- ・定期的に学内研修を実施し、他学科の教員からも教育のノウハウを得ることで、教育の質を向上させる
- ・授業評価アンケートと授業参観後のフィードバックを十分に行うことで、教員の教育力の向上と教育活動の充実を図る
- ・学外への研修を積極的に支援することで、教員の資質向上を図る
- ・教員はもちろん、職員についても個別の能力の向上を目指した研修等を行う

③ 特記事項

- ・新しい社会に貢献できる人材の育成を目指すとともに、教員の I C T能力の向上を目指す
- ・学内インターネット及びP Cの環境が整備されたことにより、教員対象の教育機器等が充実し、より質の高い教育を行うことができるようになった
- ・学生が授業においてP Cを持込み受講することで、学生自身の I Tリテラシーの向上が図れるようになった

(4)．学修成果

評 価 項 目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・就職率の向上が図られているか	④	3	2	1
・資格取得率の向上が図られているか	4	③	2	1
・退学率の低減が図られているか	4	③	2	1
・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	③	2	1
・卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	4	③	2	1

① 課題

- ・国家試験合格率が全国平均を下回る学科がある
- ・同窓会などの組織がなく、全学的に卒業生の活躍状況を把握できていない

② 今後の改善方策

- ・今年度も予備校講師による教員サポートや国家試験対策用ソフトの活用により国家試験対策の強化を続けたが、学科によっては国家試験合格率を高めることができなかったため、学習方法と指導、対策の見直しを行い合格率の向上を図る
- ・学生への声掛け等の徹底と学業両面のきめ細やかなサポートを充実させ、保護者との連携に努めることで初年次の退学者の減少を図る
- ・卒業生の状況を把握する為に、卒業生とコミュニケーションを取れる仕組みを構築し、卒業生等を対象とした定期的なアンケートを実施し、卒後研修等を計画する
- ・引き続き、きめ細かい保護者との連携により、前年度より退学者数、退学率とも減少を目指す

③ 特記事項

- ・医療福祉従事者に必要な資質である人と人との関わりを通じたコミュニケーション能力の向上を目的とした研修旅行を実施した
- ・「沖縄今帰仁村研修旅行」では海岸清掃ボランティア等を行うとともに民泊体験を行うことでホストファミリーとの交流ができ、異世代、異文化に触れ、見聞を広げる体験ができた
- ・入学直後の時期に行う「国立赤城青少年交流の家研修旅行」は、共同作業を行うことで

学生同士の交流の幅を広げ、集団生活の中での時間とルールを守ることの大切さを再認識させ、今後の学生生活に繋げることができた

- ・「京都、大阪研修旅行」では、万博見学もあり、世界中の文化や最先端のテクノロジーに直接触れることで、持続可能な未来（SDGs）について学生自身がこれからの暮らしや生き方を考えるきっかけとなった
- ・各種の研修旅行は、参加学生の人間的成長を感じることができる実りある研修であったことから、来年度も継続実施する予定である
- ・入学前に登校日を設けたこと、多様な研修旅行を実施したことにより、新入生に対する学習や生活支援等が強化され、1年次の退学者の減少につながった

(5). 学生支援

評 価 項 目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
・学生相談に関する体制は整備されているか	④	3	2	1
・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④	3	2	1
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④	3	2	1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
・学生の生活環境への支援は行われているか	④	3	2	1
・保護者と適切に連携しているか	④	3	2	1
・卒業生への支援体制はあるか	4	③	2	1
・社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	③	2	1
・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・ 職業教育の取組が行われているか	4	③	2	1

① 課題

- ・本校は高等教育修学支援新制度の対象機関であり、経済的な支援体制は整っているが、僅かながら経済的理由で学業を継続できない学生もいる
- ・国試については支援体制があるが、卒業生組織がないため、卒業生支援が不足している

② 今後の改善方策

- ・奨学金や教育ローン制度の案内等を行い、学費支援の体制を強化する
- ・早期から学生生活を過ごしやすいできるように学習以外の相談も対応する
- ・社会人のニーズを把握し、学びやすい環境を整備する
- ・卒業生への支援を充実させるための体制強化を図る

③ 特記事項

- ・高等学校とのキャリア教育連携授業を実施し、今後も規模拡大を予定している

(6). 教育環境

評 価 項 目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④	3	2	1
・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	④	3	2	1
・防災に対する体制は整備されているか	④	3	2	1

① 課題

- ・教育用設備、備品等の経年劣化があるため、順次取り換えているが、まだ不足しているものもある
- ・アクティブラーニング等の授業手法もできるよう学習環境を整えてきているが、教員の技量によるところがある

② 今後の改善方策

- ・先端の医療福祉現場を学べる臨床実習を増やし、質の向上を図る

③ 特記事項

- ・Wi-Fiを整備したことで、PCや動画等を用いた映像による学習が日常的に継続できている
- ・学生が授業においてPCを持込み受講することで、学生自身のITスキルが向上した
- ・老朽化した設備、備品の取替更新を行ったことで、教育の質向上に繋がった
- ・全学生、全教職員を対象とした防災訓練と防災教育を実施することで、防災に対する意識と対応力の向上を図っている

(7). 学生の受入れ募集

評 価 項 目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・学生募集活動は、適正に行われているか	4	3	2	1
・学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4	3	2	1
・学納金は妥当なものとなっているか	4	3	2	1

① 課題

- ・少子化に伴う募集対象の減少
- ・高校の進路指導における大学進学意識の高まり
- ・学科間での定員充足率の格差
- ・社会人に対する募集活動が不十分である
- ・医療福祉従事者希望の減少

② 今後の改善方策

- ・募集対象の減少には県外や地方部に募集活動エリアを拡げていく
- ・医療福祉系職業に対しての理解を深めるよう高校訪問を強化する
- ・ホームページや SNS を活用し、学校の情報を適宜発信して認知度を向上させる
- ・夜のオープンキャンパス開催や社会人向けサイトの企画等、社会人募集を強化する
- ・今年度実施の職業理解のための商業施設イベントを継続していく

③ 特記事項

- ・広告としてケーブルテレビの情報番組で学校行事や外部商業施設で行った職業紹介イベントの様子を放映し学校についての周知を行った
- ・高等学校の部活動支援を行うことで、職業紹介の機会となった
- ・来年度開設の新学科「みらいデザイン学科」の学生募集を開始した
- ・商業施設にて医療福祉職の理解のため、仕事紹介、体験を実施した

(8). 財務

評 価 項 目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	3	2	1
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	3	2	1
・財務について会計監査が適正に行われているか	4	3	2	1
・財務情報公開の体制整備はできているか	4	3	2	1

① 課題

- ・財務情報公開の体制整備

② 今後の改善方策

- ・長期的に安定した運営を行えるよう中長期的な経営計画を策定する

③ 特記事項

特になし

(9). 法令等の遵守

評 価 項 目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1
・自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4	③	2	1
・自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1

① 課題

- ・自己点検・評価の内容について具体的なフィードバックが不十分である
- ・個人情報における適切な管理指導と教職員の意識改革

② 今後の改善方策

- ・自己点検内容について、全学で共通認識を持ち、課題の解決を行う組織体制を構築する
- ・個人情報保護については、意識や理解を深めるために定期的な研修を実施する

③ 特記事項

- ・学内ネットワークが整備されたことにより、ウイルス対策は整った

(10). 社会貢献・地域貢献

評 価 項 目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	3	2	1
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	3	2	1
・地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4	3	2	1

① 課題

- ・ボランティア活動の参加がコロナ以前より減少している

② 今後の改善方策

- ・関係団体や地域に対し、開かれた学校としてより一層施設提供などを行うことで地域貢献へ繋げる
- ・学生はもちろん教職員においてもボランティア活動の意義ややりがいを理解し、興味を持つことで、ボランティアへの積極的な参加に繋げる
- ・公開講座を企画し、地域に根差した学校を目指す

③ 特記事項

- ・地域貢献として前橋市と「前橋学の普及促進に関する連携協定」を締結し、前橋学市民学芸員養成講座の特別講演を本校施設で開催した
- ・ボランティア活動の一環として We are buddies の活動支援を継続して行った
- ・来年度も介護従事者の人材確保に関する事業や公共職業訓練等の受託を継続し、委託訓練の実施に協力する
- ・地域の活動団体が旧前橋高等職業訓練校の跡地施設を継続的に利用している
- ・旧前橋高等職業訓練校の施設における学習支援及び、行事支援を継続的に行った
- ・昨年度より引き続き高等学校向けの部活動支援にて講師を派遣することにより、新たな連携を構築することができてきている
- ・留学生の状況や多文化共生について、警察署の研修会へ教員を講師として派遣した
- ・高等学校とのコラボレーション企画として、小中高生及びその保護者に対してトレーニング指導を行い、リハビリ職の職業認知の向上に寄与した

(11). 国際交流

評価項目	適切… 4、ほぼ適切… 3、 やや不適切… 2、不適切… 1			
・留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか	4	③	2	1
・留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	④	3	2	1
・留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	④	3	2	1
・学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4	③	2	1

① 課題

- ・留学生の在籍数が増大したことにより、サポート方法の再考が必要である

② 今後の改善方策

- ・留学生用の広報媒体や母国語翻訳資料等を作成し、募集と支援両面で活用する
- ・在留資格交付率が高い国の受け入れと新規エージェント開拓を継続していく

③ 特記事項

- ・国際交流の一環でカンボジアにある日本語学校とのオンライン交流を継続している
- ・留学生担当部署（留学生センター）を設置することで、学習や生活指導等を学科教員と担当職員が協力してサポートする体制が整っている
- ・卒業した留学生の口コミと学校の評判により、学校認知度が向上した

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

今回の自己点検・評価を行うことで、今後の具体的な課題や改善点が明確となった。

募集活動については、少子化に伴い募集対象が減少する中で、高校の進路指導、修学資金の充実による大学進学が増え、危機感を高めている。その中でも安定した募集活動を行っていく為、インスタグラム等の SNS を活用して多方面に募集活動を発信することや視聴する人々のニーズに合った内容の再構成、再作成を行い、学校の認知度及び学校のブランド化を向上させる必要がある。募集対象の減少については、来年度以降も募集活動エリアを県外や地方部まで広げることによって新たな対象の確保を画策していきたい。

教育活動については、本校が医療・福祉系の専門学校であることから、第一に医療福祉従事者の資質の向上を目的に教育にあたる。入学前にコロナ感染症の予防対策によって対人対応能力の低下や体験値・経験値の不足がある学生には、今後も各種のイベントや研修旅行への参加を促す。また、積極的なボランティアへの協力、実施によって人間性豊かな学生の育成を目指す。

第二に、学力向上・退学者対策を目的に、入学前教育プログラムの継続実施と初年度教育の充実に取り組み、学力の向上を基盤に専門教育へと繋げる教育活動を行う。

第三に、学内の ICT 化を進める中で、授業資料のペーパーレス化、PC ソフトを活用した学生同士の共同作業の可能性と協力体制の確立等、新たな学習活動の多様化を考える。急速に進む医療福祉現場のグローバル化や人工知能導入に伴う労働の変化に対応できるよう、教育の質の向上を図っていきたい。

学生支援については、特に留学生の増加に対応するための新しい方策を考える必要があるが、留学生にとどまらず、学生が安心して学生生活を送れるようサポートの強化をしていきたいと考えている。さらに、社会人や高齢者等にも学ぶ機会を提供できるように学習環境を整えるとともに多様化する学生に配慮することを継続し、学習の習熟度を個別に把握し速やかに対応する。具体的には、実習先や就職先との連携を深め、医療福祉の最先端の情報や技術を取り入れることで、将来を見据えた教育活動の構築を図り、学生生活の充実を内外に周知していく。

法人運営については、安定的な財務基盤を堅持しながら、時代や社会ニーズに合わせた学校づくりを 10 年先を見据え行っていく。

今後もより安全安心な学校づくりに引続き全教職員にて取り組んでいきたい。

以上